

項目	2007年8月17日付IAEA事務局長報告 (GOV/2007/45-GC(51)/19) ¹
核燃料加工工場 (寧辺)	<ul style="list-style-type: none"> ● イエロー・ケーキから金属ウランへの転換のための主要プロセスと必須機器を特定。 ● 監視・検証手段として以下の措置が適用されている。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 封じ込め・監視手段 (C/S 手段)、及び写真記録 ・ ウラン中間生成物、金属ウラン・インゴット、二酸化ウラン粉末、5MW (e) 実験炉のための燃料棒、50MW (e) 原子炉のための燃料棒芯などの工場内に存在する核物質へのアクセス ・ IAEA による工場内のあらゆる場所へのアクセス
放射化学研究所 (再処理施設) (寧辺)	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>IAEAは、以下の通り、2002年以降における新たな装置・工程の設置及び導入を確認。</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 機械式脱被覆プロセスの導入 ・ 共抽出 (共除染：ウランとプルトニウムの核分裂生成物からの分離) のためのパルス・カラムの設置² ・ 二酸化プルトニウムの金属プルトニウムへの転換工程 (フッ化、溶解、鑄造工程を含む) の導入 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 北朝鮮は、金属プルトニウムのさらなる処置は他の場所 (施設) で行ったと説明した。 ● 核物質の在庫には、ウラン溶液、低・中・高レベル放射線廃棄物などが含まれ、これらの在庫は現在 IAEA の監視下にある。 ● 北朝鮮は、廃棄物の一部を固化して、再処理施設に隣接した (IAEA が訪問したことがある) 別の建物に移したと説明した。 ● 他に、監視・検証手段として、封じ込め・監視手段 (C/S 手段)、及び写真記録が適用されている。 ● C/S 手段が適用できない場所には、IAEA による施設内のあらゆる場所へのアクセスが認められている。
5MW (e) 実験炉 (寧辺)	<ul style="list-style-type: none"> ● 北朝鮮は、炉心内に残る核燃料、ならびにトランスファー・ハッチ及び燃料取替機内に残る少量の破損燃料棒を除いて、この実験炉には核燃料は残されていないと説明。 ● 炉心、破損した照射済み燃料、使用済燃料の移送経路並びに主要装置をカバーする C/S 手段及び放射線監視装置を設置。 ● 他に、監視・検証手段として、写真記録、及び IAEA による施設内のあらゆる場所へのアクセスが適用されている。
50MW (e) 原子炉 (寧辺)	<ul style="list-style-type: none"> ● 2002年以降、建設開始は確認されていない。 ● IAEA は炉心用の黒鉛が貯蔵されている場所を訪問した。 ● IAEA は写真記録と断続的な訪問によりこの施設の状況を確認。
200MW (e) 原子炉 (泰川：テチョン)	<ul style="list-style-type: none"> ● 2002年以降、建設開始は確認されていない。 ● IAEA は写真記録と断続的な訪問によりこの施設の状況を確認。

¹ IAEAホームページ、第51回総会関連資料から。 http://www.iaea.org/About/Policy/GC/GC51/GC51Documents/English/gc51-19_en.pdf.

² 以前、北朝鮮はこの工程のためにミキサセトラを用いていた。2006年10月31日から11月4日にかけて訪朝し北朝鮮の核プログラム関係者にインタビューした元ロス・アラモス国立研究所所長のDr. Siegfried S. Hecker は、Ri寧辺原子力研究所所長がミキサセトラからパルスカラムに置換したことで回収能力が30%改善されたと話したことを、報告書に記している。詳しくは、Siegfried S. Hecker, "Report on North Korean Nuclear Program," Center for International Security and Cooperation, Stanford University, Nov. 15, 2006, [URL] <http://www.keia.org/3-Programs/HeckerReport.pdf>. を参照のこと。